



一般社団法人
日本善行会

〒100-0006
東京都千代田区有楽町
2-10-1 東京交通会館内
TEL (03) 3212-6996
FAX (03) 3212-6998
URL: http://www.zenkoukai.or.jp
メール: info@zenkoukai.or.jp

毎月1日発行
編集発行人 相澤 克也

善行は、社会を
照らすともしび。

日本善行会の 歴史の重み

一般社団法人 日本善行会

副会長 勝野 堅介



日本善行会は、今年創立以来八十周年を迎えます。六月の記念式典をはじめ様々な記念事業の準備が進められています。先日、八〇周年を記念して出版される「八〇年のあゆみ」に掲載する写真の選定作業を「八〇年のあゆみ編集委員長」の石毛理事や小島日本善行会本部事務局長と行いました。これまでの日本善行会の歴史を物語る膨大な量の写真を見ながら改めて日本善行会のこれまでの歩みを振り返ることができました。

春秋の表彰式や日本善行会の本部や各支部の様々な活動の写真をみるとこの時にこんなことがあったのだと初めて知ることも多くあり、八〇年の歴史の重みを感じました。

※本会は善行精神の普及と善行の実践を通して明るい住みよい社会環境づくりにつとめております。会員会費と個人・企業・地方公共団体からの賛助金により運営されております。広く会員を募集しております。



昭和37年11月3日
第12回善行表彰式総理大臣官邸にて

中でも驚いたことは、昭和四十年代の春秋の表彰式が今は内閣総理大臣官邸となつている以前の首相官邸で行われていたことです。旧首相官邸の大ホールで行われた表彰式や旧首相官邸に入つてすぐの階段のところでの受賞者の記念写真が外国人受賞者も含め何枚もありました。旧首相官邸時代には組閣の際に、皇居での認証式を終えた新閣僚の記念写真が撮影されていた階段です。

日本善行会が高く評価されていたことを実感するとともに、今後更に日本善行会を発展させていかなければならないと改めて思いを新たにいたしました。

支部だより

岩手県支部

秋の交通安全 事故防止活動と 「交通安全千羽鶴」 贈呈

日本善行会岩手県支部釜石地区は、東日本大震災発生から五年八か月余りとなり、復興工事が本格的となりました。それに伴い、復興工事に関係する工事車両の通行が日毎に増加して、常時非常に危険な道路交通状況にあります。

釜石地区の交通事故は増加しており、住民が危険をよぎなくされておられます。この状況から、交通安全事故防止活動を地域ぐるみで力を合わせ交通安全事故の増加を防止する手段として、昨年度に続きまして善行会婦人部(矢浦サト部長)が女性会員に呼びかけ「交通安全千羽鶴」を作成し、多くの地域住民と復興工事の関係者や車両等々の運転者に理解を得るため、秋の交通安全運動初日の「九月二十一日」釜石警察署玄関前で釜石警察署長に「交通安全千羽鶴」を



贈呈し、善行会支部女性部が交通事故防止の願いを込め作成致しましたので、活用し交通事故の減少に努めて下さるよう、お願い申し上げます。釜石警察署長より「交通安全千羽鶴」の趣旨に添い警察署と沿岸免許センターの玄関口に展示し「交通安全事故防止」啓発に努めますと感謝を込めた暖かい言葉を賜りました。

その後、都南総合支所より、交通安全運動参加団体(交通安全協会、交通安全母の会、見前交番所盛岡市交通指導隊、善行会岩手県支部)に「黄色い羽根、ティッシュ」等が渡されて通勤・通学で電車の乗降者並びに自転車の方、歩いて登校する小・中・高生にも交通安全事故にあわないよう、呼びかけをしながら黄色い羽根などを配布し注意を促し、朝のひとときを各団体の皆さんと提携し交通安全事故防止活動に励みました。



群馬県北毛支部

秋季善行表彰伝達式・ 祝賀会及び児童養護 施設への餅つき慰問 の実施

去る十二月四日(日)

午後六時から、伊香保温泉千明仁泉亭に、秋季善行表彰を受賞された個人十一名及び皇太子殿下の御接見の栄に浴した四名をお招きして、会員五十四名の出席のもとに秋季善行表彰伝達式を開催いたしました。

特に、秋季善行表彰では受賞者十一名のうち十名が明治神宮参集殿での全国表彰式に参列したほか、伝達式にも全員が参加するなど、善行表彰に関する意識の高さが示され、改めて会員とともに受賞を祝しました。

式では、始め島村支部長から、改めて受賞者のそれぞれの功労内容を紹介し、支部からの記念品を添えて表彰状の伝達を行い、併せて日頃の善行活動への謝辞と今後の活動への理解と支援をお願いしました。その後、皇太子殿下御接見者を加えた受賞者等全員から善行活動内容、及び皇太子殿下御接見時での感想等を発表していただき、和やかな祝宴となり善行活動を更に広める等、大きな



成果をあげて終了しました。当日の午前中、島村支部長以下会員四十八人が参加して支部発足以来継続して実施している善行活動「児童養護施設へのもちつき慰問」を実施しました。施設で共同生活している子供たちは現在の五十名で、いずれも「親のいない子供や理由があつて親と一緒に住めない子供たち」です。この支部活動も、もう十五年を迎えたことから子供たちも「善行会のおじさん、おばさん」等と親しみを帯びてくれていることが年々強く感じられております。

米が蒸し上がって、いざ餅つきが始まると、白の周りを囲み「よいしよ!、よいしよ!」とかけ声をかけあつて、三十キ口からの米をたちまちつき上げました。

ついた餅は、会員・子供が一緒に大福、きな粉餅、からみ餅などを作り、顔をくず粉で真っ白にしたがらの奮闘であつたり、あながうまく包めず会員にSOSを出す子供など、様々で、自分で作った餅を味わつておりました。これらの状況は地元紙「上毛新聞」に翌日掲載され、大いに善行会精神をアピールすることが出来ました。

熊本県宇土支部

『創始の心』から十年 創立十周年記念式典 及び秋季善行表彰伝 達式の開催

日本善行会熊本県宇土支部(山下八郎支部長)は

十二月十七日、日本善行会相澤克也副会長、元松茂樹宇土市長外、地元県議会議長、教育長を来賓に迎え創立一〇周年記念式典並びに秋季善行表彰伝達式を開催しました。

平成十九年、八名の有志が支部設立に向け行動を起こした『創始の心』から十年が経過、善行運動推進で善行者に光りを当て、明るい社会づくりを使命として活動を続け会員も五十名、善行推薦は百十八名になりました。相澤克也副会長、元松茂樹市長からは、これまでの善行推進活動に謝意を述べられ、さらに善行の輪が広がる事を祈念しますと挨拶。

山下八郎支部長は先の熊本地震で全国支部からの義捐金に謝意を述べ、これからも善行の絆で心をつなぎ、社会を照らすともしびとして善行運動の推進に努めてまいりますと挨拶。なお、十名の秋季善行表彰伝達式も行われ、式典終了後の祝賀会では受賞者と共に懇親を深めました。



2面へつづく